

学会彙報

○昭和六十二年大塚漢文学会大会

六月二十七日(土)

於東京都教職員互助組合教育会館

〔研究発表〕

一、項元汴收藏の千字文編號について

筑波大学研究生 松村 茂樹氏

一、『公孫龍子』守白の論について

筑波大学大学院 小野塚相三氏

一、李商隱の古文から駢文への転向について

筑波大学大学院 加固理一郎氏

一、一九二〇年代中国の思想分化

—「国家主義」を中心として

埼玉大学 小谷 一郎氏

一、いわゆる「欧化語法」について

筑波大学 大塚 秀明氏

一、自伝について—陶淵明の場合

山形大学 沼口 勝氏

一、『論語義疏』の日本伝来時期について

東京外国語大学 高橋 均氏

〔漢文教育シンポジウム〕

〔総合国語の中における漢文の位置〕

司会 法政大学 安藤 信広氏

東京学芸大学附属大泉高校 長瀬 瑞己氏

青山学院大学 大上 正義氏

東京工業高等専門学校 謡口 明氏

〔総会〕

一、開会の辞

金子彰男氏を選出

内山 委員

二、議長選出

三、委員長挨拶

水沢委員長

四、諸報告

(1)庶務

松本 委員

(2)企画

向嶋 委員

(3)会報編集

大上 委員

五、議事

(1)昭和六十一年度決算

堀池 委員

(2)昭和六十二年度予算

堀池 委員

(3)委員選挙

水沢利忠、内山知也、田部井文雄、伊藤虎丸、高橋均、中村

嘉弘、向嶋成美、謡口明、中村俊也、大上正美、佐治俊彦、

堀池信夫、松本肇、安藤信広、加藤敏の十五氏を選出

(4)その他

六、閉会の辞

内山 委員

○月例会 昭和六十二年十二月十三日(日)

於桜蔭会館

一、江淹後集と「才忌」

筑波大学附属高校非常勤講師 中野 将氏

一、公羊学の師承―劉逢禄より龔自珍へ

筑波大学 中村 俊也氏

昭和六十三年三月十二日(土)

於筑波大学学校教育部会議室

一、『韓非子』「解老篇」について

筑波大学大学院 菅本 大二氏

一、陶淵明の園田について

筑波大学大学院 坂口 三樹氏

○昭和六十三、六十四年度委員会

委員長 水沢利忠

副委員長 内山知也

総務(企画) 田部井文雄、中村嘉弘、向嶋成美、中村俊也、

加藤敏

〃 (庶務) 松本肇、加固理一郎、谷口真由実

会計 堀池信夫、菅本大二

会報編集 伊藤虎丸、高橋均、謡口明、大上正美、佐治俊彦、

安藤信広

会計監査 横山伊勢雄、田中有

住所、勤務先等に変更のあった方は、事務局(〒305茨城県つくば市天王台一ノ一ノ一、筑波大学文芸・言語学系内)宛第一報くだ

大塚漢文学会々則

- 一、本会は大塚漢文学会と称する。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
- 三、本会の会員は左の通りである。
- 1、旧東京教育大学漢文学会々員であつて参加を希望する者
- 2、その他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
- 1、総会 年一回
- 2、例会 年約三回
- 3、学会誌及び会員名簿の発行
- 4、その他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。
- 1、委員長 一名
- 2、委員 若干名
- 3、編集委員 若干名
- 六、役員の任務
- 1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
- 2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
- 3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
- 七、役員の選出及び任期
- 1、委員長は委員の互選による。
- 2、委員は会員の互選による。
- 3 編集委員は委員会が委嘱する。

4 任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。

八、会員は会費年額四千円を納める。

九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない。

附則1、本会は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学

会々則に代つて発効する。

2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。以上

編集委員(委嘱)

(哲学・思想) 小林 信明・加賀 栄治・水沢 利忠
(文学・語学) 鈴木 修次・内山 知也・伊藤 虎丸
(漢文教育) 鎌田 正・金子 泰三・田部井文雄

漢文学会会報第四六号

昭和六三年六月二〇日印刷
昭和六三年六月二五日発行

大塚漢文学会

編輯者

伊藤 虎丸・高橋 均・謡口 明
大上 正美・佐治 俊彦・安藤 信広

印刷所

東京都千代田区神田神保町三ノ一〇
株式会社 共立社印刷所
電 (261) 二〇〇二八

茨城県つくば市天王台一―一―

筑波大学文芸言語学系内(千三〇五)

発行所

大塚漢文学会